

### IgA腎症の主な治療

扁桃を摘出する手術 + 副腎皮質ステロイド

**ステロイドパルス療法**

- 点滴: 3日間を1か月おき
- のお薬: 2日に一度

を6か月間続ける

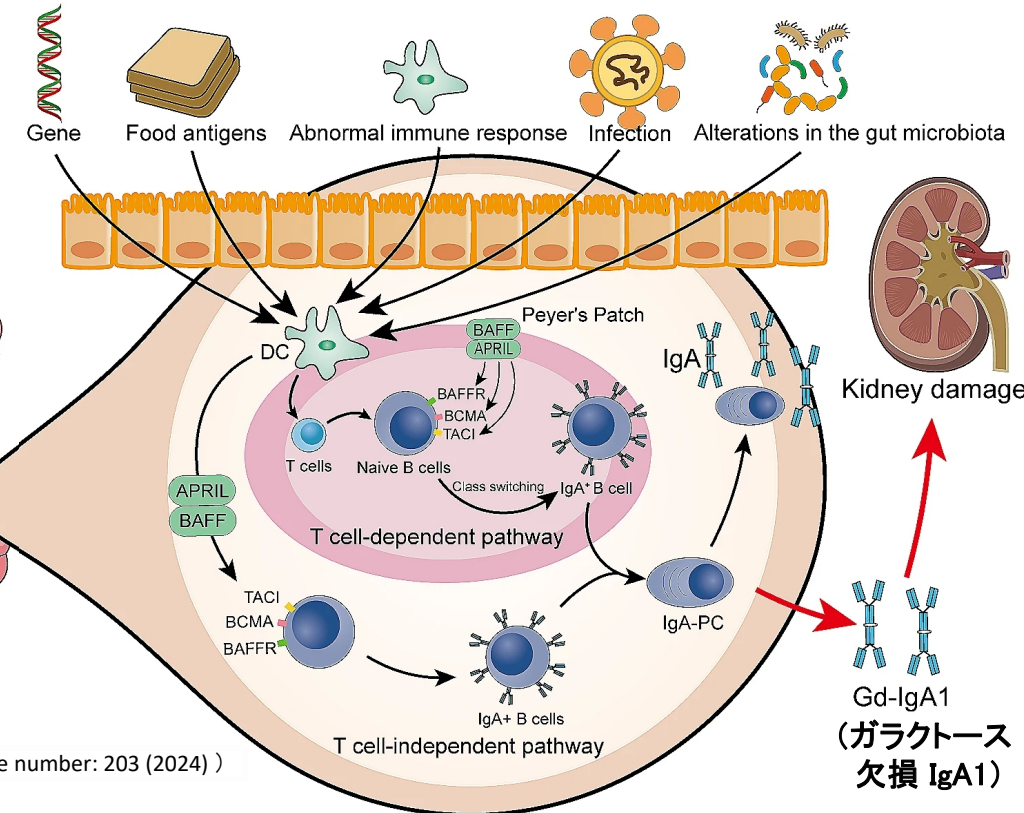
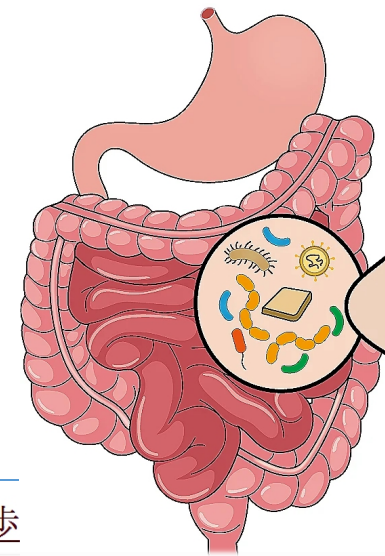
●高血圧がある

ACE阻害薬 や ARB など  
レニン・アンジオテンシン系阻害薬

**減塩**   **肥満の解消**   **禁煙**

<作成: stnv基礎医学研究室>

## ← IgA腎症治療の一般常識



### IgA腎症における腸内細菌異化症媒介粘膜免疫の役割の理解における進歩

(原図の出典: BMC Nephrology volume 25, Article number: 203 (2024))

要因	変化	意味
腸内細菌叢 細菌異化症	腸内細菌叢の組成の変化	粘膜免疫の障害とIgA産生の増加
サイトカイン	TNF-α、IL-6、IL-8のレベルの上昇	炎症と糸球体損傷を促進します
遺伝学	免疫応答に関連する遺伝子の突然変異	IgANの遺伝的素因
ダイエット	グルテンと乳製品の大量摂取	粘膜免疫応答を増加させる可能性があります
粘膜免疫	IgA1グリコシル化の異常	免疫複合体の形成につながります
補完システム	代替経路の活性化の増加	糸球体の炎症と損傷を増強します
感染症	再発性上気道感染症	異常なIgA1産生を引き起こす
酸化ストレス	酸化ストレスマーカーの増加	腎臓の損傷とIgANの進行に寄与します
メサングウム細胞	TLRの過剰発現	炎症反応と免疫複合体の沈着を誘発します
エピジェネティクス	DNAメチル化パターンの変化	免疫応答に関与する遺伝子発現を調節します

← ↑ **しかし、腸内細菌叢が大きく関係しているという事実が明らかにされつつある**

- **IgA腎症**(アイ・ジー・エーじんしょう)とは、腎臓の糸球体に免疫グロブリンA(IgA)が沈着して炎症を起こす慢性糸球体腎炎である。
- 発症の原因や、完治に繋がる治療法が無いことから、**指定難病**に認定されている。
- 風邪を引いたときに発症および再発することがあるため、口蓋扁桃で異常なIgAが増産されることが引き金になると考えられており、治療のために**口蓋扁桃の摘出**が行われる。
- 併せて、**ステロイドパルス療法**が行われる。
- 予防には、一般的には減塩、タンパク質制限、肥満の解消、禁煙、適度な運動が言われるが、腸内細菌叢には言及されない。